

## 1) 本書の使い方

本書では、**医療保険適用エキス剤**の漢方製剤を中心に解説をしました。今回は、例として、ツムラの保険適用エキス剤の番号(**TJ-数字**)、1包量、1日量を示しています。漢方製剤の番号および適応症については、製薬会社によって多少異なりますので、添付文書を参照ください。

製剤名に**下線**のあるものは、よく使用される製剤を示します。各製剤の適応については、ツムラ漢方製剤の例で記述しました。〈 〉内は、医療保険による歯科口腔領域の関連適応症を示します。また、医科適応症を示したのものもあるので、参考にしてください。

本書では、歯科口腔領域で使用できる保険適用エキス剤の漢方製剤を中心に記述しましたので、実際に効果のある方剤と若干異なる場合がありますかと思いますが、その点をご理解のうえ参照してください。また、**関連病名**として、その製剤の保険病名を記載しましたので、実際の症状だけでなく関連症状や関連疾患を参考にして、処方の決定をするようにしてください。

そのため、歯科適応がない、あるいは歯科では処方しにくい方剤については、処方例で述べていませんのでご了承ください。また、**処方量**は、原則として通常の1日量を基本に記述していますので、体重や併用方剤を考慮して加減量してください。

## 2) 漢方処方の考え方

漢方とは、日本における中国系伝統医学の総称です。江戸時代に西洋系医学との対比で、漢に起源をもつ医学として「漢方」と呼んだことに始まりました。現在の中国における中医学とは、同じ起源であり共通項は多いのですが、別物です。日本の漢方は、西洋医学の影響も受けて独自に発展してきたことから、日本の伝統医学であり、東西両医学の接点にあるといえます。

漢方医学では、常に全身を一個の有機体として捉えて診断します。特に心身全体の調和を図り、個体差を尊重します。また、西洋医学的な病

名が同じでも、症状により異なる処方を用いる点が特徴です。

全身的な診断方法は、臨床検査技術の未発達な時代の医療経験に基づきます。病態としては、陰陽(生命反応の強弱、新陳代謝の状態)、虚实(体質の強弱)といった経験的病態分類を用います。病因は、気、血、水といった仮想的病因で論じます(**表1**)。

漢方の処方は、生薬、すなわち基本的に植物、一部の動物と鉱物の組み合わせでできています。これらを加熱水抽出しますが、現在では、エキス製剤化されています。この生薬の組み合わせは、単独とは違った薬理効果がみられ、また、複数の病態にも同一の処方で対応できるのは、多くの生薬が混在している利点でもあります。

したがって、陰陽(新陳代謝の状態)や虚实(体質の強弱)は、治療方針の選択基準の一つになります(**表2**、**3**)。

また、病人を全体として捉えることが必要です。漢方医学には病気という概念はありません。局所の病変も全体の不調和とみて、調和をはかるのが漢方医学の特徴といえます。漢方薬は、生体の治癒能力を高めて、症状改善を行います。そのため、効果については、長期にわたる症例が多いのも事実ですが、症状の経過や重症度によっては、早期に改善される場合もあります。また頓服的に使用できる漢方製剤もあります。

表1:「気・血・水」

<b>気</b> ・体の中を流れている未知・摂食行動(消化吸収に関係するところ)なるもの	・“食べたい”という欲求から異物を摂取して同化するまでのプロセス
・生体エネルギー	
<b>血</b> ・血液成分	・生体内の環境を快適にする
・血液の流れ(血めぐり)	・ホルモン、環境
・血液の状態	・体内の微調節
<b>水</b> ・生体内の水分	・満腹になると食われる番=微生物の攻撃
・水分代謝	・免疫(生体防御)
・水分の流れ	・生体防御のすべての機構(皮膚、髪など)

## 7 口腔乾燥症

□ 口腔乾燥症は、近年、薬剤性の唾液分泌低下による場合が多くみられる。また、口腔機能の低下の場合や舌などの過緊張などの場合、ストレスに起因する場合、血行不良に起因する場合があります。方剤の決定には、原因を考慮する必要がある。

### ■ 主な製剤

#### (1) 白虎加人参湯 (TJ-34) 3.0g 1日量 9.0g

〈のどのほてりのあるもの〉

薬剤性口腔乾燥症には、ファーストチョイス。

清熱剤。熱と乾燥が主な症状の場合。舌は口舌乾燥、白苔か黄苔。

#### (2) 滋陰降火湯 (TJ-93) 2.5g 1日量 7.5g

〈のどに潤いがなく、痰が出なくて咳き込むもの〉

滋陰剤。舌が乾燥傾向。微白苔か無苔。血液の栄養不足と水分低下の場合。

#### (3) 麦門冬湯 (TJ-29) 3.0g 1日量 9.0g

〈※痰の切れにくい咳、気管支炎、気管支喘息〉※適応注意

慈陰剤。慢性炎症や消耗性疾患で、消化管に水分が乏しくなった結果、気管支も。

◆乾燥した状態に効果あり。一般に虚証タイプで、やせ形で体内の水分が少ない場合。

#### (4) 五苓散 (TJ-17) 2.5g 1日量 7.5g

〈頭痛、めまい、二日酔〉

利水剤。歯痕舌や胖大舌のみられる場合。水分代謝の改善。

#### (5) 十全大補湯 (TJ-48) 2.5g 1日量 7.5g

〈貧血、病後の体力低下、疲労倦怠、食欲不振〉

気血双補剤。体力低下で、慢性化した化膿巣。衰弱した人で、貧血あり。

#### (6) 桂枝加朮附湯 (TJ-18) 2.5g 1日量 7.5g

〈関節痛、神経痛〉

利水剤。冷え性で痛みのあるもの。

#### (7) クラシエ八味地黄丸 (EK-7) 2.0g 1日量 6.0g

〈しびれ、むくみ、\*口渴\*使用目標

温裏補陽剤。身体機能低下、循環不全、舌は湿って淡白、白滑舌苔、無苔の場合も。

### ■ 処方例

#### (1) 薬剤性口腔乾燥症には、ファーストチョイス (図1)

Rp) ツムラ白虎加人参湯 9.0g (分3 毎食前)  
／14日分

関連病名：口腔乾燥症 (舌は口舌乾燥、白苔か黄苔)。

#### (2) 歯痕舌や胖大舌のみられる場合。水分代謝の改善 (図2)

Rp) ツムラ五苓散 7.5g (分3 毎食前)  
／14日分

関連病名：顎関節症 (頭痛)。

#### (3) 溝状舌で、粘膜が弱っている場合

Rp) ツムラ十全大補湯 7.5g (分3 毎食前)  
／14日分

関連病名：ハンター舌炎、舌痛症、口内炎による食欲不振。

#### (4) 冷え性で、関節などに痛みを伴う場合

Rp) ツムラ桂枝加朮附湯 7.5g (分3 毎食前)  
／14日分

関連病名：顎関節痛、三叉神経痛。



図1 薬剤性口腔乾燥症  
舌苔が黒毛舌の所見を呈している。



図2 歯痕舌と胖大舌  
舌辺縁に歯痕がついており、水分代謝が低下。

■ 124 ■ センキュウチャチョウサン  
ツムラ川芎茶調散エキス顆粒 (医療用)

【組成・性状】

組成 本品 7.5g 中、下記の割合の混合生薬の乾燥エキス 3.25g を含有する。

日局コウブシ……………4.0g 日局ビャクシ……………2.0g  
日局センキュウ……………3.0g 日局ボウフウ……………2.0g  
日局ケイガイ……………2.0g 日局カンゾウ……………1.5g  
日局キョウカツ……………2.0g チャヨウ……………1.5g  
日局ハッカ……………2.0g

添加物 日局ステアリン酸マグネシウム、日局乳糖

【効能または効果】

感冒、血の道症、頭痛

■ 133 ■ ダイジョウキトウ  
ツムラ大承気湯エキス顆粒 (医療用)

【組成・性状】

組成 本品 7.5g 中、下記の割合の混合生薬の乾燥エキス 3.0g を含有する。

日局コウボク……………5.0g 日局ダイオウ……………2.0g  
日局キジツ……………3.0g 無水ボウショウ……………1.3g

【効能または効果】

腹部が硬くつかえて便秘するもの、あるいは肥満体質で便秘するもの。  
常習便秘、急性便秘、高血圧、神経症、食あたり

■ 135 ■ インチンコウトウ  
ツムラ茵陳蒿湯エキス顆粒 (医療用)

【組成・性状】

組成 本品 7.5g 中、下記の割合の混合生薬の乾燥エキス 1.5g を含有する。

日局インチンコウ……………4.0g 日局ダイオウ……………1.0g  
日局サンシシ……………3.0g

添加物 日局ステアリン酸マグネシウム、日局乳糖

【効能または効果】

尿量減少、やや便秘がちで比較的体力のあるものの次の諸症：黄疸、  
肝硬変症、ネフローゼ、蕁麻疹、口内炎

■ 137 ■ カミキヒトウ  
ツムラ加味帰脾湯エキス顆粒 (医療用)

【組成・性状】

組成 本品 7.5g 中、下記の割合の混合生薬の乾燥エキス 5.0g を含有する。

日局オウギ……………3.0g 日局サンシシ……………2.0g  
日局サイコ……………3.0g 日局タイソウ……………2.0g  
日局サンソウニン……………3.0g 日局トウキ……………2.0g  
日局ソウジュツ……………3.0g 日局カンゾウ……………1.0g  
日局ニンジン……………3.0g 日局ショウキョウ……………1.0g  
日局ブクリョウ……………3.0g 日局モッコウ……………1.0g  
日局オンジ……………2.0g リュウガンニク……………3.0g

添加物 日局軽質無水ケイ酸、日局ステアリン酸マグネシウム、  
日局乳糖

【効能または効果】

虚弱体質で血色の悪い人の次の諸症：貧血、不眠症、精神不安、神経症

■ 138 ■ キキョウトウ  
ツムラ桔梗湯エキス顆粒 (医療用)

【禁忌 (次の患者には投与しないこと)】

1. アルドステロン症の患者、2. ミオパシーのある患者、3. 低カリウム血症のある患者